

役員組合訪問

第4回 本会 寺嶋貞夫副会長（博多織工業組合）

今回は、寺嶋貞夫副会長の組合である博多織工業組合を12月中旬に訪問しました。寺嶋副会長に、会社の創業から組合の理事になるまでの経緯、博多織デベロップメントカレッジの開校、求評会開催による組合の活性化等を語っていただきました。インタビュアーは中小企業診断士の菌田久恵氏です。



寺嶋貞夫理事長

組合概要

組合名：博多織工業組合

組合設立：昭和34年5月

代表者：理事長 寺嶋 貞夫

本社所在地：〒812-0023

福岡市博多区奈良屋町5番10号

T E L：092-409-5162

F A X：092-409-5086

偶然、博多織の世界に

一理事長は、昭和48年に寺嶋織物を創業されていますが、ご出身は福岡ですか？

寺嶋：私は関西出身で、学生のころ大病を患い入退院が続き、体力、気力も衰退しておりました。友人は学生生活あるいは社会人としてエンジョイしており、かなり落込んでいた状態でした。遠縁を頼りに温泉療養を決意、九州各地の温泉養生を3ヶ月ほど続けて次第に健康体に回復することができました。知人の紹介で福岡の博多織メーカーに就職いたしました。社員（従業員）120名程度の会社で15年、総務・企画等をやり、取締役専務で退職し、昭和48年（1973）独立、工場を創業、36歳でした。

ーそれは異色の存在ですね。

寺嶋：博多織全体の事は経験いたしました。織技術、現場のことは工場長に任せ、博多織工業組合の役員に立候補、理事に就任、それにより会社の信用力が高まりました。

ー組合には、何百年も続く老舗企業もあるなかで、やりにくい、ということはありませんでしたか？

寺嶋：それは全くありませんでした。博多織の業界、あるいは歴史等は十分周知しておりましたので……。もちろん皆さんの協力があってこそ、それは不可欠です。又、初代だから出来ることもあり思い切ったイノベーションの達成も皆さんの力の結集と思っています。

博多織デベロップメントカレッジの開校

ー平成18年に、博多織デベロップメントカレッジを開校されています。

寺嶋：博多織は1241年鎌倉時代という長い歴史と伝統がありますが全体的に高齢化が進み、モノ作りのクリエイターあるいは後継者不足がありました。正確には博多織技術開発養成学校というNPO法人です。当初開校資金が約5,000万円必要という試算でした。

九州電力をはじめ地域の企業を訪問し、福岡県・福岡市の伝統工芸品産地の存亡危機を訴え、延べ30～50回の企業訪問で理解を求めました。幸い賛同者が多く、当初の目標を達成することができ、伝統工芸の魅力・振興で賛助の皆様之恩返しができるよう、前向きに取り組んでおります。又、九州経済産業局・福岡県・福岡市等の



昨年の求評会にて（寺嶋理事長と桑野龍一本会会長）

行政の支援があって開校でき、感謝をいたしております。

—どうしても学校を作らなければ、という強い気持ちがおありだったんですね。

寺嶋：今の現状では10年先は業界も40～50%縮小するという強い危機感がありました。現在はカレッジの卒業生約70名の人達が独立して工房あるいは博多織関連に就職しております。先ほども言いましたようにモノ作り産地の大きな課題のひとつ、人材不足・後継者難は完全に解決することができました。若い人達も地域の伝統工芸に今、大きな関心を持っていることを実感いたしました。

若い感性で、業界刷新の息吹きが生まれる

寺嶋：毎年、博多織発祥の地 承天禅寺で新作発表会「求評会」を開催いたしております。平成28年度で第114回になりますが、東京 名古屋 京都 大阪等の商社あるいは地域の一般の方々をはじめ4日間で約2,500名の来場があり、その内700～800名の方がきもの姿です。モノ作りのクリエイターも、先程ふれましたように20代から70代まで「老壮青」のバランスあるモノ作りが技術を競っており、バリエーションある作品の展示が好評を得ております。

—たしかに、求評会の報告書を拝見すると、今までにないような斬新な色柄がありますね。

寺嶋：そうですね、今までは閉鎖的だったのが

若い人の加入で全体のレベルアップがあると思います。

—業界の状況はいかがですか？

寺嶋：売上の最盛期は昭和48年頃でしょうか。180～200億の出荷額がありました。現在は25～30億程度です。これは原材料絹糸の価格問題もあり、一概には計算できませんが・・・帯・きものだけではなくインテリア・ファッションからギフト商品、ネクタイ、背広等まで、今ではそれらのアイテムも300くらいあると思いますが、博多織というブランド力を発信しております。大きなモノでは国際会議場の緞帳から、名刺入までいろんなジャンルにチャレンジしております。東京では福岡市との共催で福岡市伝統的工芸品新作展を毎年4月に開催しております。マンモス都市で博多織・博多人形のPRを行い、お客様の認知度アップを図っております。

—東京の方でも展示会をされていますが、反応はいかがですか。

寺嶋：2020年のオリンピック等もありインバウンドの増加も見越して今後もしっかりと取組み、強力に発信を続けたいと思っています。理事・役員も30代からとバランスがとれており、長い歴史ある博多織を今後もしっかりと魅力ある作品、新商品の開発にも意欲を持って取り組みたいと決意を新たにしております。

インタビューを終えて

理事長は、昭和48年に組合の理事に就任されて、財政基盤の強化に取り組み、その後も博多織デベロップメントカレッジの開校によって若い人材を輩出するなど、次々と業界全体の刷新を行っています。また、平成20年には、5年の歳月をかけて、「博多織史」という文化的にも価値の高い本も刊行されました。病気療養のため、たまたま九州に、という偶然のできごとが、775年の歴史をもつ博多織の世界に新しい潮流を生み出したことに驚くとともに、その源流をたどっていくと、文化の力、という強いものに行きつきました。

（中小企業診断士
 蘭田久恵）

